

山口大学ワンダーフォーゲル部OB 会

2006 年OB 通信第二号

〒753-0841 山口市吉田1677-1

山口大学体育会ワンダーフォーゲル部OB 会事務局

URL <http://houben-kai.sakura.ne.jp/>

12 月中旬発行

はじめに

山口も日に日に寒くなり、カレンダーも残り一枚となったところで年の瀬を感じる頃となりました、前回のOB 通信ではいくつかのミスがあり、何度もお知らせすることになり申し訳ありませんでした。これからの発送では気をつけていきたいと思えます。

10 月に行われたつくばでのOB 総会やその後の懇親会も盛会となり、無事終わったということです。それでは詳しい内容については本文をお読みください。

連絡先

OB 会についてなにかご意見、ご質問等ありましたら、下記のメールアドレスか連絡先にご連絡よろしくお願ひいたします。

OB 会会長
末国弘司

OB 会副会長
木山克彦

事務局(2006 年末日まで)
上岡 敬巧

事務局(2007 年より)
田中 歩希

目次

第1章OB会より	1
1.1 さらなる発展を願って	1
1.2 平成18年YUWVOB総会を終えて	2
1.3 2006年WVOB総会のご報告	4
1.4 OB会の名称について	5
1.5 2005年会計報告	7
1.6 2005年監査報告	8
第2章OB会員の皆様へ	9
2.1 OB会公式ホームページのご案内	9
2.2 お知らせ	12
2.3 2005年会計報告	12
2.4 OB会費納入について	12
2.5 入会、脱会について	12
第3章現役活動報告-本部-	13
3.1 カンパ金の御礼	13
3.2 執行部近況報告	13
3.3 夏合宿結果報告	13
3.4 1年生合宿(美ヶ原)	16
3.5 春合宿紹介 サバイバル in 宝島	17
第4章現役活動報告-工学部-	19
4.1 執行部近況報告	19
4.2 夏合宿結果報告	19
4.3 アフター紹介	19
4.4 80km 耐久徒歩結果報告	19
4.5 春合宿紹介	20
第5章その他	21
5.1 OB会ホームページ	21
5.2 Y.U.W.V. ホームページ	21
5.3 編集後記	21

第1章

OB会より

1.1 さらなる発展を願って

OB会長 末國弘司

2006年が暮れようとしています。会員の皆様にとっては、今年はどんな年だったのでしょうか。

OB会は、2006年の最大行事である総会を成功裏に終えました。今年は東京支部の引き受けでしたが、例年と少し趣を変えて、「筑波ふれあいの里」での一泊バーベキュー大会となりました。参加者は総勢52名。初めての試みの上、大会前夜まで参加者の移動があるなど、東京支部の皆さんのご苦勞は、察するに余りあるものでした。改めて感謝の意を表したいと思います。

懇親会終了後も深夜まで歓談が続き、一段と親交が深められたようです。翌日は筑波山を中心に散策を楽しむ会員も多く、素晴らしい日でした。筑波山周辺のラッシュが予想以上だったことも、いずれ懐かしい思い出となるでしょう。

今回総会は、OB会の第一目的である会員相互間の親睦を深める上において、非常に有効であったと思います。

次回総会は、山口が引き受けとなりました。いま、世話人がプランを練っていますが、11月10日～11日に「国立山口徳地少年自然の家」（山口市徳地船路）を仮押さえしています。期日はできれば10月中くらいの日程でと思ったのですが、会場の都合でやむを得ず11月にずれ込みました。これから内容を詰めていきますが、ほぼこの日程で進むと思います。概略は決まり次第、OB会のHPでもお知らせする予定です。

OB会のHPについては現在現役生のHPに同居していますが、独立させることになりました。この通信がお手元に届くころには、独立している予定です。別項で管理人がお知らせしていますので、ご一読ください。まずはスタートさせ、内容は順次充実させていく予定です。積極的にアクセスしていただき、内容の充実にご協力ください。

OB総会は、当初の企図通り、各地区での持ち回り開催が順調にいき、東京ー山口ー福岡ー関西と回り、今年でまた東京に戻り一巡しました。今後は、この持ち回りが定着することを、願っています。会員はほぼ全国に散らばっています。数年に一度でも各地元で開催し、遠方には出かけ難い会員にも参加の機会を得ていただきたい、交流深める機会にしていきたい、との思いからです。日常の交流には、新たに独立したHPを大いに活用してください。

また総会の期日について、お子さんがまだ小さい会員にとっては、10月の連休は何かと行事があったりして参加し難いとの声があるとも聞いています。

10月の連休にセットしたのは3連休で2 第1章 OB会よりあれば遠方からも参加しやすいだろうということと、10月10日は気象学的にも「特異日」として晴天が多いこと、の2点からです。この日程に拘るものではありませんが、連休を外した土曜・日曜日にしても秋は行事の多いシーズンであり、どのような日程が参加しやすいのかは、今後の検討課題でしょう。差し当たっては会場の都合等、開催地区の事情に合わせていくしかないと思っています。図らずも、次回山口での総会がそのようになりまし

た。総会の日程については、回数を重ねれば、次第に落ち着くところに落ち着くのではないのでしょうか。

内容についても、開催地それぞれのフォームがあってよいと思っています。新機軸を出すのも一つの方法、この地区はこの形で定型化するのも一つの方法でしょう。懇親会では家族参加型があっても良いでしょう。その辺りは柔軟に考えてください。

いずれにしても、OB会がさらに発展するためには、若いOBの会加入と活動が必要です。若い世代のOBに積極的に声をかけ、誘ってください。またOB会を盛り上げるためには、現役部員の確保も欠かせません。部員減少の傾向を少しでも食い止められるように、OB会をあげて現役部員の活動を見守り、応援していければと願っています。

最後になりましたがOB会の名称の件があります。今総会にあわせて候補案を絞り、投票していただきました。結果については別項でお知らせしています。今後の予定としては、7月のOB通信で改めてご案内しますが、2007年、山口での総会で決定したいと考えています。

では、良いお年をお迎えください。

1.2 平成18年YUWVOB総会を終えて 東京支部 武富敏夫

平成18年YUWVOB総会（筑波ふれあいの里）に参加された皆さん大変ご苦労様でした。翌日は三連休の谷間、しかも絶好の天気にも恵まれたことから、想定外の交通渋滞にご迷惑をお掛けしたのではないのでしょうか。

レクリエーション保険を付保していたとはいえ野外での活動に事故もなく、また、熊谷君の趣味の域を越えた総会2日間の立派な写真集も、参加者全員に送付を終了しほっと一息ついているところです。

支部の会合での「今度はバーベキューでもしたいね」という言葉が脳裏に残っており、何とかOB総

会をキャンプ場等で実施できないか考えていました。昨年のOB総会で本年は東京支部が開催のお世話をすることが決定し、懇親会の席上で会長へ総会開催の腹案をお話ししました。幸いにも同席した松永君が良い候補地を知っているとのことで、そこから本年の総会開催の準備が始まった訳です。

支部では、懇親のため新年会、暑気払い、忘年会を、また、春と秋にハイキングをおこない懇親の輪を広げています。平成5年以前にも東京地区で不定期に会合が持たれていたようですが、平成6年以降に定期的な会合を開くようになり、私が幹事役を仰せ付けられ現在に至っています。水面に落とされた石の水の輪が広がっていくように、口コミ等を通じて現在では約50名の皆さんが何らかの会合に参加され、懇親の輪が拡大してきました。

参加を強制しないざっくばらんな支部の会合ですから、本年の総会の運営案についてもすべて支部長一任で進めることができ大きなトラブルもなく、総会開催に向けておおよそ次のように取り組んできました。

1月21日守谷の新年会でおおよその開催要領を説明する。当日は関東地域で久しぶりの大雪でした。

2月18日候補地を、「あすなるの里」と「筑波ふれあいの里」の2ヶ所に絞り現地を視察。ゲストにとって「筑波ふれあいの里」の方が良いと判断、候補地として「筑波ふれあいの里」で決定する。ただし、コテージの宿泊予約は3ヶ月前からであるが、バーベキュー施設の利用予約は1年前から可能ということで、木村君が10月7日40名で予約する。

4月8日事務局木山副会長と日程、参加費等を打合せする。

5月13日金時山登山の参加者に対して、開催要領案を説明。当日は雨のため全員での登山は中止したが有志3名は雨中の登山敢行。温泉組と合流しいつものことながら乾杯して解散した。

7月7日松永君が電話で「コテージ全部」を予約する。参加可能人員は56名。同日付で、事務局へOB通信掲載の「平成18年YUWVOB総会案内」原稿を送信する。

7月15日「筑波ふれあいの里」へ出向き、コテージ予約状況、バーベキュー会場予約状況、会議開催場所等を確認する。バーベキュー予約人数を40名から50名へ、キャンプファイヤー場所の予約が必要であると知り予約する。

8月5日暑気払いの折、現地案内ハンドブック案と役割分担案を説明し、役割分担は支部長一任との了解を得る。

9月2日登山ルートの再確認のため筑波山へ登る。途中の弁慶茶屋は本日限りで閉鎖とのことで、最後の有名なトコロテンを食べる。直前にボクシングで有名な亀田3兄弟の1人が立ち寄ったとのことであった。

9月16日総会当日のバーベキュー用の食品手配と「筑波ふれあいの里」のコテージ内部確認、朝食 予約等の最終確認を木村君、松永君3名

でおこなう。

9月23日会合を開き役割分担等の最終確認をおこない、当日の出席者には「現地案内ハンドブック」と「名札」を渡す。

今回のOB総会は野外であり、全員コテージに宿泊するため、コテージの色分けやバーベキュー席の色分けによって場所等がすぐ確認できるように配慮しました。また、コテージリーダーを決め鍵の管理者も明確にしました。（色分けした名札は幼稚園生みたいだねえとの評価をいただく）

また、現地案内ハンドブックにNOを付け受付もスムーズに対応でき大きな問題も発生せず、OB総会を無事終えることができました。スムーズな運営には、木村君、松永君を始め支部の皆さんの暖かい協力があったからこそであり、改めて支部の皆さんにお礼を申し上げます。

今年度の総会について感じたことを若干お話ししたいと思います。まず第一に、事務局の方でOB通信の発送をもう少し早くおこなって欲しいとのお願いです。学校行事等により多忙なことは十分理解できますが、参加者の行事・夏季休暇予定、交通手段の手配等を視野に入れて対応願いたいと感じました。

第二にOBの皆様には出欠の意思表示を締切り期限内におこなって欲しいとのお願いです。出欠の報告はすべて私宛になっていましたが、今回は、コテージの宿泊の割当や現地案内ハンドブックの個人別NOの設定等の関係から、出欠変更連絡のたびにコテージ宿泊の調整や資料変更等に苦労しました。

第三は、平成以降の卒部者の参加がなかったということです。開催地が東京のしかも筑波ということから遠いという印象からかも知れません。OB総会の活性化のためには若い力が必要であり、今後お知り合いの方に声をかけていただき、是非若い世代の参加者拡大に努めていただきたいと思います。

私も2007年問題の団塊世代の1人です。2年前位から事務局長の木村君と若返りを図る必要があると同じ考えをもっていました。当初は昨年で支部役員を交代する予定でしたが、本年は支部でOB総会を引き受けることになったため、総会終了までは今の体制で対応することとしました。OB総会后に新体制とすることで次期役員候補の方々にお願いし、次期役員候補の方々も快く引き受けてくれ、支部運営も大丈夫ではないか安心していきます。全国のYUWVOBの皆様、今後とも新役員へ暖かいご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

なお、東京支部の役員は次のとおり交代しました。

旧役員		
支部長	武富敏夫	(S45経)
副支部長	福永俊美	(S47工)
事務局長	木村均	(S46理)
新役員		
支部長	松永烈	(S49工)
副支部長	高田哲生	(S49工)
事務局長	宮原龍作	(S50経)

最後になりましたが、この原稿が掲載されるOB通信が届く頃には年の瀬が迫り、OB各位はあわただしい日々をお過ごしのことと思います。どうぞ良い年をお迎えください。そして来年山口で開催されるOB総会で、また元気な姿でお会いできることを楽しみにしています。

以上

1.3 2006年WVOB総会のご報告

OB会副会長 木山克彦

2006年WVOB総会及び懇親会、記念登山は2006年10月7、8日の二日間、茨城県つくば市の[ふれあいの里]及び筑波山で開催されました。以下、総会の議題について本紙面を借りてご報告申し上げます。

1. 昨年の総会で出た意見に関して会長より説明

1) 山小屋の建設をしたら如何かとの発言があったが、実際問題として現時点ではこれを進めるほどの状態にはないことが報告された。

2) 災害時、WVOB会として救援を検討してはどうかとの提案があった。この問題は被災状況や救援実施の際の基準を何処に置くかなど運営上難しい点も多く、OB会員の居住する地域での運動に乗った個別の対応に留めるべきだろうとの報告があった。

2. 会計報告及び監査報告は別紙(此処では略)

3. OB会ホームページ開設の途中報告 現在現役のホームページに同居している形だが、OB会専用として独立させる方向で準備中である。OB会員のsakima君の申し出により検討を開始しており、進行具合を見ながら公表できる段階になれば通信等で連絡する予定である。将来的にはOB通信などもホームページで行う事も視野に有るが、会員のパソコン所有との関係やアドレス変更の際に的確な連絡など、運営上幾つかの問題もあり、実施に当たっては会員の实態を調査した上で実行する必要がある。状況によってはホームページとOB通信の並行運営の必要があると想定される。

4. OB会名のアンケート実施結果報告今回実施したアンケート結果は12月送付予定のOB通信で報告し、来年度総会で決定する段取りとする。鳳翻会が圧倒的に多く、この頭にYUWVとか山口大OBとかを付けて決定したらとの構想である。併せてワッペンデザインも決定したいが…。

アンケートの結果は以下の通りです。

鳳翻会 60 鵬友会 38 碧山会 3
山歩会 1 山緑会 2 一任 1

5. 次年度の総会開催地

特段の立候補は無く、総会には急用で欠席の山本充二氏（山口）から引き受けを了承頂いている報告がなされ、満場一致で山口に決定した。

6. 事務局からの連絡

発送の郵便物が移転先不明で帰ってくることもあり、住所移転された場合は事務局にも確実に連絡して欲しい。又、機会があれば今回欠席の会員にもその旨を連絡して欲しい。会費有効期間が切れる年次のOB通信発送時には会費振り込み用紙が同封されるシステムなので十分留意されたい。

7. 永沼さんより過去の機関紙のホームページへの掲載の報告と同時に、今回纏められた一覧表が配布され、ホームページへのアクセスの案内がなされた。

以上

1.4 OB会の名称について

OB会長 末國弘司

1. これまでの経緯OB会の名称については、新しくOB会が発足した当初から募集してまいりました。が、残念なことに応募がなかなかなく、2005年の総会にあわせて出欠はがきで名称を募集しました。その結果、35人の会員から42案が出されました。「鳳翻」にまつわるものが圧倒的に多く、13を占めました。

2. 投票の結果上記42名称の中から木山副会長とも協議し、5案に絞って今回総会の出欠はがきで投票をお願いいたしました。その結果は、次の通りです。

投票総数 111

名称	投票数	割合 (%)
鳳翻会	60	54.1
鵬友会	38	34.2
碧山会	3	2.7
山緑会	2	1.8
山歩会	1	0.9
一任	1	0.9
未確認	6	5.4

（未確認はOB会名称投票の確認ができなかった方々です）

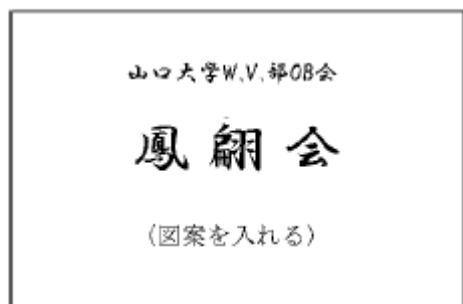
なお、1位の「鳳翻会」と「一任」「未確認」を合わせると投票数66になり、割合は60.4%となります。

現在のOB会員数は約200で、投票率は約55%となります。「鳳翻会」の名称が投票総数の過半数を超え、会員の約30%が承認したことになります。これは有効と認められます。したがって以上の結果から、OB会の名称は「鳳翻会」となるのは自然の流れでしょう

ただ、「鳳翻会」だけでは一般的には通りにくく、総会でも提案いたしましたが、頭に「山口大学ワンダーフォーゲル部OB会」のような冠を被せたく思います。しかしフルネームでは長すぎる嫌いがあるので、山口で検討の結果、「山口大学W.V部OB会 鳳翻会」とすることにいたしました。正式には、2007年、山口での総会で決定したいと思います。この名称についてのご意見があれば、事務局もしくは会長までお寄せください。

なお、「鳳翻会」の名称を応募された方々

は、次の6人です。(敬称略)永沼嗣朗、高木寛、加藤征治、秋山邦雄、中野正浩、高石豊寿これに準ずるものとして、「ほうべん会」(米沢和彦、徳田宏子)、鳳翩(深田明)、山口鳳翩会(堀江淳一)、「山大ホウベン会」(古賀利幸)、鳳翩旅鳥会(高津俊雄)、「YUWV ほうべんの会」(塚本卓美)がありました。



3. 会旗、ワッペンについて参考までに、会旗の場合は次のような形になるかと思いません。図案は名称の下に入れます。なお図案は現役部の部旗に使用しているものと同一にする予定です。

会旗の地色は部旗と同じく臙脂色で、文字は白の染め抜きにしようと考えています。

字体はこの案では行書体を使用していますが、特に限定する必要もないかと思いません。もし将来、会旗がばらばらなスタイルで作成されるような事態が起これば、その時点で「会旗規定」を考えればよいでしょう。三角ペナントも、イベント等で使用することが考えられますので、作成してみようと考えています。

ワッペンについても、会旗と同一図案で作成したいと考えています。地味なイメージを受けられるかも知れませんが、文字に銀色を使うなどすれば、上品なものが出来ると思います。

2. OB 会HP に掲載する内容

掲載する内容は、これまで現役部員のホームページ内で公開していた情報と同様、OB 会会則等のOB 会全体に関する情報、OB 通信、機関誌です。その他、OB の方々から頂いた写真、ニュース、旅行文書等も随時掲載します（正確には、掲載したい内容を利用者自身の手で掲載することが可能です。詳しくは後述します）。また、OB 会支部ごとのページを作成し支部ごとの情報を公開するなど、ニーズにあわせて随時コンテンツを追加して行こうと考えています。

その他にも、いつでも情報更新できる「フットワークの軽さ」や、読者からの案を即座にフィードバックできる「双方向性」といったインターネットならではの長所を生かし、柔軟に掲載内容を発展させて行きます。

3. 参加型ホームページ

今回新たに設置したOB 会HP の大きな特徴は、XOOPS（ズープス）というコンテンツマネジメントシステムを使ってホームページを構成していることです。数年前までは、ホームページの作成や更新には、自分のパソコンにソフトウェアを導入する必要があったり、こまごまとしたルールをたくさん覚えなければなりませんでした。それらの理由のため、新しくページをつくったり、すでに存在しているページの内容を書き換えるといった作業は、管理者と呼ばれる人が一人で行っていました。

しかし、インターネットユーザの増加、技術的發展に伴い、Web ブラウザ（Internet Explorer やFirefox 等の、ホームページを見るためのソフトウェア）からの操作だけでホームページ上の情報を更新できるようなシステムが広く普及しています。OB 会HP で採用しているXOOPS もその中の一つです。

前置きが長くなりましたが、要は「管理人以外の人でも、ホームページ上の内容を更新できる」ことが、OB 会HP の大きな特徴です。もちろん、誰でもかれでも更新できる訳ではいので、第三者により勝手にページが書き換えられてしまうような心配はありません。

4. ユーザ登録

OB 会HP の特徴を生かし、ページ情報を更新したり、自分のページをOB 会HP 内に作成したりするためには、ユーザ登録をして頂く必要があります。登録に必要な情報は「ユーザ名」と「パスワード」です。ユーザ名は、便宜のため「h14sakima」のように、卒業年につづけて姓をローマ字表記したもので登録してください。パスワードはお好きなものをお使いください。

5. さらに詳しくはOB 会HP で！

ユーザ登録の方法、ニュース投稿の方法、ページの作成方法等の詳しい説明は、

<http://houben-kai.sakura.ne.jp/modules/xoopsfaq/>

に「良くある質問と解答」としてマニュアルを用意します。興味のある方はご活用ください！

2.2 お知らせ

会費未納の場合は自然脱会となっております。
会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。
納入状況につきましては、OB 名簿をご覧ください。なお2006 年まで納入で、2007 年が未納の方にのみ、振り込みをお願いする紙を同封しております。

2.3 2005 年会計報告

総会にて承認となりました。詳細につきましては前章に2005 年会計報告と監査報告を掲載しております。

2.4 OB 会費納入について

2007 年分OB 会費を納入されていない方はお手数ですが、郵便振込にて下記へ納入して下さいようお願い申し上げます。なお、2006 年分OB 会費が未納の方は自然脱会となっております。

口座記号番号01530-0-16050

加入者名山口大学ワンダーフォーゲル部

個人会員年会費2,000 円

夫婦会員年会費3,000 円

会費納入は上記の倍数で御支払い下さいますようお願い申し上げます。

2.5 入会、脱会について

初めて入会される方、再度入会される方は会費振込を意思表示とさせて頂いておりますので、お手数ですが、前記の口座にお振込み頂きますようお願い申し上げます。

会費未納の場合は、自然脱会となりますので、会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。

事務局より

第3 章

現役活動報告-本部-

3.1 カンパ金の御礼

今回のつくばでのOB 総会においてOB の皆様方より22,000 円のカンパ金をいただきました。また、ご報告が遅れましたが昨年の京都での総会においても52,120 円のカンパ金をいただきました、合わせて御礼申し上げます。これからも部の装備の充実に努め、山口大学ワンダーフォーゲル部を活発にしていこうと思います。有難う御座いました。

46 期主将 田中歩希

45 期主将 上岡敬巧

3.2 執行部近況報告

46 期主将 田中歩希

現在、現役部員の数は一〇人。一回生五人、二回生一人、三回生三人、四回生一人となっています。夏合宿が終わってから、一回生が一人やめて寂しくなりましたが、元気よくやっております。来年は、二回生が一人、しかもメツチェンなので少し心配ですが、しっかりしているのでしっかりやってくれると思います。今は、一二月にある駅伝に向けてしっかりと体力をつけています。夏合宿は、本学の一回生が病気などいろいろあり、数人いけなくなり、工学部も人数が足りなくて一緒に登ることになりました。台風のせいで二日しか登れなくて残念でしたが、両日ともとても晴れ、景色や富士山がとてもきれいで、全員大はしゃぎでした。

僕らの代は、他大学や他の部ともっと交流をもとうというコンセプトのもと、体育会の企画に参加したり、中四合Wや、今年から中国合同Wという新たな企画に参加したり、活発に活動してきました。そのおかげで、他部や他大学と仲良くなり、スポーツマッチにも他大学が参加してくれるようです。この仲が来年以降も続いてくれると良いと思います。

11月末に忘年Wを行いました。雨で中止になりBOXで飲み会となりましたが、久々に工学部や先輩方と飲むことができみんなとてもハッスルしていました。

1月で僕らも幹部交代ですが、それまで清掃Wやスポーツマッチが残っているのでしっかりやっていきたいと思います。

そして、交代しても新幹部を暖かく見守っていきこうと思います。

3.3 夏合宿結果報告

PL 清水和也

今回、夏合宿で南アルプスに行ってきました。その報告をしたいと思います。

■AP1

急遽、工学部と合同になったり錬成がアゲインになったりと、出発までは本当に長い道のりだった…。だが8月30日ついに出発の朝を迎えた。先輩方に見送られて湯田温泉駅を出発！ 県大への差し入れを間違えて持ってきてしまうというハ

プニングはあったが、順調に南アルプスへの軌跡をたどる。

今回APに新幹線を使ったのだが、新山口～広島まで30分で行ける新幹線の早さと楽さに、鈍行のみでのAPのつらさを知る上級生は感動の涙を流した。

AP1だというのに、乗客から『クサイ…』という痛い視線を浴びせられながらも順調に乗り継ぎ予定通り伊那市に到着。駅員さんの厚意により、今日は駅に泊まらせてもらうことになった。

明日から遂にアルプスへ突入だ。P-men一同、武者震いと長野の夜の寒さに震えながら一夜を過ごした。

■AP 2

AP2は伊那市駅からタクシーで戸台口へ行き、そこからバスで北沢峠に行った。

戸台口のバス停の近くには川が流れており、バスの時間にも余裕があったのでP-menみんなで川で遊んだ。アルプスの冷たい清流が足に心地良かった。

バスからは南アルプスの山並みが見え、P-menからは何度も歓声が湧き、みな明日からの山行を楽しみにしている様子であった。

北沢峠から北沢長衛小屋まで歩き、今日はここにテントを張った。

明日はここから仙丈ヶ岳にピストンをする。

電波の入りが悪く天気図がとれなかったが、本部の方曰く前線が接近しているらしい。明日の天気心配だ。

■1 日目沈

夜中にテントの外からガサガサ音がして何度か目が覚めた。小屋の人に、「数日前に熊が出たから気を付けて。」と忠告されていたのでビビリながら入り口を見てみると、なんとキツネだった。ほっと胸を撫で下ろした。

朝から小雨が降っていて、本部からの情報通りこの日は沈が決定した。

昼過ぎぐらいまで雨が続き、おかげでテントに浸

水しシュラフがウェットスーツのようになった。

トランプや読書など、沈の時の定番メニューで時間をつぶし、一日が終わった。明日晴れることを祈り就寝。濡れたシュラフの感触で寝心地は最悪であった。

■2 日目

今日は雲ひとつ無い快晴で、絶好の山行日和となった。前日の沈で登りたい気持ちを抑えていたので、今日は朝からいいペースで歩いた。薄暗く展望の無い樹林帯を進んで行き、サブザックということもあり、あっと言う間に大滝ノ頭に到着した。

そこからしばらく歩くとだんだん樹林がまばらになり、展望が開けてきた。いままで経験したことないアルプスの高度感に一年生は声を上げていた。

ハイマツ帯を抜けて行くと小仙丈ヶ岳のピークに到着した。三年生も南アルプスのピークに立つのは始めてなので、P-men全員その感動は格別であった。

そこから仙丈ヶ岳へ約一時間歩き、遂にピークに到着した。ピークは人がほとんどおらず、天気も快晴。青い空とアルプスの山々のコラボレーションに、写真を撮らずにはいられなかった。

ここから馬ノ背ヒュッテ方面から下山していった。道の傍に色々な種類の高山植物があり、また

3.3 夏合宿結果報告

甲斐駒ヶ岳を正面に見ながら下山することができ、全く飽きさせない下山道であった。

16:00から天気図、エッセンをとった。南東方面にある台風の進路が気になる所である…。

北沢長衛小屋 4:00 発

大滝ノ頭 5:42 着 5:57 発

小仙丈ヶ岳 6:46 着 7:06 発

仙丈ヶ岳 8:23 着 8:58 発

太平山荘 12:11 着 12:28 発

北沢長衛小屋 12:51 着

■3 日目

今日はサブザックで甲斐駒ヶ岳に登る予定で、AP2の時から見えている甲斐駒の白く輝くようなピークをP-men全員が期待していた。

樹林帯を進みしばらくするとゴースト地帯が現れ、それを抜けると仙水峠に到着した。ちょうどここで朝日が出た。雲海から太陽が出てくる様はとも神秘的であった。

ここから駒津峰へは急坂が続き、さすがにP-menも疲れた様子であった。

一時間ほど歩くと駒津峰に到着した。ここからは甲斐駒ヶ岳がよく見え、その雄大さにさっきまでの疲れは吹き飛んでしまった。

ここからはまず摩利支天に向い、それから甲斐駒ヶ岳のピークへ向う。注意箇所を通るのでみな少し不安そうだった。滑りやすい白砂の登山道を慎重に進み、摩利支天に到着。

ここから摩利支天分岐に戻り甲斐駒ヶ岳のピークへ。登山客が多くなかなか思うように進めなかったが、なんとかピークへ到着した。

ピークは360°の展望で、南アルプスの山々はもちろん、雲海から富士山が顔を出しているのも見れて最高だった。登山客の多さにはウンザリだったが…。

駒津峰に戻り、ここから双児山ルートを通して下山した。視界の悪い樹林帯をひたすら下山していき、足に疲労が溜まっていった。朝からずっとトイレがなく、北沢峠に着いたらほとんどのP-menがトイレにダッシュしていた。

北沢長衛小屋に帰り、この日の行程は終わった。心配していた通り台風が日本に接近し、上級生と本部で話し合った結果、残念ながらエスケープが決定した。まだ縦走もしてないのに…

北沢長衛小屋	4 : 00 発
仙水峠	4 : 37 着 4 : 52 発
駒津峰	6 : 56 着 7 : 16 発
摩利支天	8 : 37 着 9 : 07 発
斐駒ヶ岳	9 : 55 着 10 : 40 発
駒津峰	11 : 49 着 12 : 10 発

双児山 12 : 40 着 13 : 00 発

北沢長衛小屋 14 : 22 着

■4 日目

計らずとも最終日の朝になってしまった。名残惜しいがこれでアルプスともお別れである。バスに乗り帰っていると、なんと野生のカモシカがいるではないか！ バスの傍まで接近してきて、合宿最後の思い出になった。

戸台口からタクシーで伊那市まで戻り、電車で松本駅へ。15 : 40 にあがたの森に到着し、合宿終了となった。

今回合宿がエスケープとなって、P-menには申し訳無かった。

しかしP-menの表情を見てみると、山行はたった二日だったがアルプスの風を感じ、感動してもらったのではないだろうか？と思う。

来年は今回の失敗を行かし、台風でエスケープしないように計画を立てて欲してくれ。

最後に、本部や安対をしてもらった先輩方、また色々と協力してくれた同期のメンバー、アドバイスをしてくれたOBの方と、本当にいろんな人に支えられて出来た合宿だと感じました。本当にありがとうございました。

3.41 年生合宿（美ヶ原）

SL 田井 玲奈

9月8日から9月10日にかけて、美ヶ原にて一年生合宿を行いましたので報告します。今年の一年は6名でしたが、残念ながらオッチェンが2名参加できず、オッチェン2名、メツチェン2名の計4名という少人数での合宿となりました。

■9月8日 AP （晴れのち曇り）

先輩方に見送られ、県の森を出発。頂いた差し入れが結構な量だったため、かなりのスローペースで歩いて松本バスターミナルへ。バスに乗り込み、外の景色を眺めながら各自昼食。三城で下車し、そこから広小場キャンプ場へ向かいました。正直、最初のロードは楽勝だろうと思っていたの

ですが、道を間違えたり、一般客からの苦情により通れなくなったという道があったりして、意外に苦戦しました。

途中、差し入れのサッカーボールが坂の下まで転がってしまうというハプニングがあり、必死にボールを追いかけるP-menの姿が印象的でした。沢沿いに登る山道では、県の森でのユルイ生活が招く体力低下のせいなのか、差し入れの負担が大きかったのか、理由は様々だと思いますが、広小場に到着する頃には全員の息が荒くなっていました。この日は夕エッセン後、皆でトランプをして就寝。明日に備えてゆっくり休みました。

■9月9日 1日目（曇り）

行程1日目。広小場を出発し、昨日登ってきた山道を下り、三城から美ヶ原高原の最高地点である王ヶ頭を目指します。

王ヶ頭、王ヶ鼻ともにガスっていて視界が狭く、厳しく吹きつける風には心まで冷え切ってしまうのでした。周りに聳え立つ電波塔もまた、この場所の味気ない雰囲気には拍車を掛けていました。ホテルの方のお許しを頂いて、王ヶ頭ホテル内で昼エッセンを済ませ、美ヶ原牧場を通って塩くれ場へと向かいます。牧場も最初は霧がかかったような白っぽい風景がひたすら続きましたが、一瞬の晴れ間が広がり、広大な草地にたくさんの牛の姿が浮かび上がり、その幻想的な風景にはちょっとした感動を覚えました。動物好きのP-menも興奮しているようでした。

百曲がりを下る時には全員のテンションが上がっていて、歌を歌ったり、百曲がりの曲がり角を大声でカウントしていったりと、大はしゃぎでした。私たちが数えた結果は確か『39曲がり』だったと思います。

広小場へ着いてから夕エッセンまでの時間、近くの沢でサンショウウオの捕獲を楽しむ者、日記をつける者、電話連絡に行く者、とそれぞれ自由に過ごしました。

■9月10日 2日目（曇りのち晴れ）

雨天が心配されましたが、なんとか曇りで2日目の行程が始まりました。昨日は陽気に下ってきた百曲り登山道ですが、この日はガスにより何の眺望もない状態の中を登っていき、塩くれ場へ。多少疲れが出てきたのか、前日に比べるとP-menの元気がないような気がしました。美しの塔で記念撮影をし、次は牛伏山へ向かいます。山といふか、小高い丘を登るような感覚で登った牛伏山の頂上からは、一瞬でしたがガスが晴れて、周りの山々を見渡すことができました。しかしその後すぐに辺り一帯をガスに覆われてしまい、少し前でも見えなくなり始め、重い足取りで塩くれ場に戻りました。視界があまりに狭く、危険だという判断で茶臼山はコースカットをし、広小場に到着、一年生合宿は終了しました。

無事に合宿を終えることができホッとしました。今回の合宿で初めてSLを務め、先頭に立って歩くという役割をさせていただきました。至らない点は多々ありましたが、今後の活動に役立つ良い経験を積めたのではないかと思います。最後になりましたが、この合宿を立てるに当たって、たくさんの助言、お力添えを下さった多くの先輩方に心から感謝致します。本当にありがとうございました。

3.5 春合宿紹介 サバイバル in 宝島

PL 西村 朋子

今回春合宿のPLを務めさせていただきます、経済学部経済法学科2年の西村朋子と申します。

合宿は、1年生5人と2年生1人の計6人で、トカラ列島の宝島でサバイバルを行います。

上級生が2年の私だけということで、少し不安な面もありますが、十分な準備をして合宿に臨みたいと思います。

なぜ今回の合宿でサバイバルを行うことにしたのかということですが、サバイバルは私の入部当初からぜひ経験したいという夢でもあり、さらに1年生に釣り好きの者が多いということから、サ

バイバルを行うことで部員に合宿を楽しんでもらえるのではないかと考えたからです。

合宿は宝島という面積約7 km²という小さな島で、鹿児島本港南埠頭を出港し、約13時間のフェリーでのAPとなります。ここで、この島についてコース紹介の代わりに少し紹介させていただきます。

宝島は、鹿児島の屋久島と奄美大島の間に位置する、トカラ列島の最南端の島です。有名なステーブンソンの小説「宝島」のモデルとなった島で、島内には海賊キャプテンキッドが財宝を隠したと伝えられている鍾乳洞があり、海岸には熱帯、亜熱帯の植物（アダン群生、ビロウ群生、リュウキュウバショウ等）が生息し、島の北側には大砂丘があります。

さらに島の中央には約300mの山もあり、まさに自然の宝庫ともいえるべき所だと思います。島の人口は約100人で、海岸沿いには牧場がいくつか点在します。またこの島は珊瑚礁でできた島でもあり、島から海を眺めて見えるその絶景が目につかびます。

合宿では、大砂丘の北に位置する大籠（おおごもり）海水浴場を拠点とし、そこから歩いて約15分の場所にある、前籠（まえごもり）漁港の栈橋、埠頭、防波堤といった所で釣りをして食料を獲得します。春には、トビウオ、ヒラアジ、イソマグロやカンパチといった魚が釣れるそうです。合宿前に行う釣り練習の成果を発揮して、自分達の食料に必要な量を獲得できれば良いと思います。

合宿の期間である3月は、観光客がほとんどおらず、テン場の大籠海水浴場も私達くらいであることが予想され、少し寂しい思いをすることになりそうですが、本来の目的であるサバイバルに徹するには最高の環境だと思います。

この合宿を通して、部員が一回り、二回り大きくなれるよう、また良き思い出が作れるように、しっかり準備をして成功させたいと思います。

第4 章

現役活動報告-工学部-

4.1 執行部近況報告

44 期主将大宮拓也

昨年までは、80km耐久徒歩を復活できていましたが、今年は工学部と高専の人数の関係により行えず、夏合宿も2年生の3人が身内の事情や骨折などにより参加できず、本学と合同で行くなど、昨年に比べて全体的にうまくかみ合わない時期となりました。

日頃の活動では、週2回のトレに「スロー腕立て伏せ」や「縄跳び」を取り込み、週1回は常盤ランをし、学長杯に向けて体力の向上を図っているところです。

また、11月の後半に主将候補が急遽、部を辞めてしまったことにより新執行を行う予定時期が狂ってしまい、部内が騒然としました。春合宿においても2年生が2人になってしまったことにより、計画を変更せざるおえない状況になりました。

このように、厳しい状態になりましたが、うまくこの壁を乗り越え、部としてより一層の精進を行いたいと思います。

4.2 夏合宿結果報告

主将 大宮拓也

前回のOB 通信や、執行部近況報告で書いたように今回は本学と合同で行いました。詳しくは本学の結果報告をご覧ください。

4.3 アフター紹介

主将 大宮拓也

今年のアフターは上高地から横尾山荘を經由して槍ヶ岳をピストンする2泊3日の計画でしたが、責任者が身内の事情により参加できなくなってしまい、中止となりました。

アフターが行えなかったことから、現在では開いた時期を見計らってフォローワンデリングとして、九州の九重へ行くことを計画しています。

4.4 80km 耐久徒歩結果報告

実行委員長 須戸康弘

八耐の責任者を務めさせていただくことになった電気電子工学科2年の須戸です。

今回の八耐は、今まで通りのコースで行う予定でしたが、高専のほとんどが5年とういうことで忙しく、実質的に人数不足になったため中止という形をとりました。また、今年から開催された中国合同ワンデリングで時期的にも厳しくなっていました。したがって今回の八耐は中止ということをご報告いたします。

4.5 春合宿紹介

PL 須戸康弘

このたび、春合宿を務めさせていただくことになりました電気電子工学科2年の須戸と申します。今回の合宿は屋久島での山行を行います。荒川登山口から長いトロッコ道をトレッキングし、大株

歩道入口から屋久島ならではの縄文杉に出会います。この辺りから急騰になり、屋久島最高峰宮之浦岳を目指しての山行となります。ここでピストンし、楠川分かれで白谷雲水峡に向かいます。白谷雲水峡の魅力は、なんととってももののけ姫の森です。気候的に降水量が多いため、森の中は湿潤で、辺りには雨水を含んだ緑色のコケが覆われています。耳を澄ませると木々の、自然たちの謳歌が聞こえてくると共に屋久島での大自然を体全体で感じることができると思います。

合宿でのPL は初めてなので色々と不備があるかもしれませんが、頑張って成功させたいと思います。

第5 章

その他

5.1 OB 会ホームページ

今回OB 会のHP が独立しました、詳しくは、第2 章のOB 会公式ホームページのご案内をお読みください。

OB 会HP URL

<http://houben-kai.sakura.ne.jp/>

5.2 Y.U.W.V. ホームページ

山口大学ワンダーフォーゲル部のホームページをご紹介します。

Y.U.W.V. ホームページURL

<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tabidori/>

5.3 編集後記

現役は日々トレーニングに励んでおり、その成果を見せる学長杯駅伝も行われました。その結果はコースを間違い失格となりました。途中までは8 位に入っていたのですが、残念な結果でした。来年は挽回してくれることを願っています。自分も現役から退いて体が衰えたので、それに影響されてトレーニングを始めているところです。

1 年間務めてきた事務局も大方仕事も終わって、気持ちは楽になりました。第1 号の発送ではドタバタしたり、今年は大したことはできなかったかなと思います。

今年もLATEX を使った文章を作りました。例年この形でやってきてますが、一般的にはWord などを使うことが多く、なれないうちは大変だと思います。自分も事務局になって勉強しました

が、普段の大学のレポートなどはWord で全てやってきたので、次の事務局をする人は難しいようならどちらでやっても良いかなと思います。見た目はこちらの方が綺麗に仕上げやすいと思うので、またじっくり考えていって欲しいと思います。

編集 上岡 敬巧